

広島体験学習に参加して
長久手中学校 二年一組 内藤 峰愛
七十二年前、原子爆弾が投下された、あの
暑い夏の日を彷彿させるような、八月二十三
日。私は広島体験学習に参加して戦争の悲惨
さや平和の尊さについて学ぶことができまし
た。
昭和二十年八月六日午前八時十五分。一つ
の原子爆弾が、一瞬にして広島市のなんの罪
もないおよそ二十万人もの一般市民が犠牲と
なりました。終戦七十二年を迎えた今日でも
原爆の放射能後遺症による健康被害で苦しん
でいる人が大勢いるなど、多くの爪痕を今な
お残しています。
残念ながら、今の世の中は命の尊さが少し
ずつ薄れてきていると思えます。日々の暮ら
しに生きる自信を無くし、自ら命を絶つてし
まうなど毎年多くの命が失われていきます。戦
争で被害を受けた人たちは、このよな世の中
を望んでいたのでしょうか。

				発信していききたいと思ひます。	が見失われないう願ひ、平和の尊さを自ら	してはならないと思ひます。私は平和の尊さ	いくべきだと思ひます。戦争の惨禍を無駄に	争について考え直し、今できることをやって	れから先も永遠に維持するためには私達が戦	わらせるのではなく、この平和な世の中をこ	思ひます。だから戦争を過去の歴史として終	して私達は平和に暮らすことができののだと		こんな酷い戦争があつたからこそ、今こう	たことが、無念でならなかつたそうです。	ても、国民には本当のことは知らされなかつ	突き刺さつています。たとえ日本が負けてい	を騙す。」この二つの言葉が今でも心の奥底に	もの心でさえ鬼にする。」「戦争は騙す。国民	のお話を伺ひました。その中で「戦争は子ど	私は戦争の被害を受けた方に戦争について
--	--	--	--	-----------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------	---------------------